

防災業務計画書

静岡駅前地下駐車場

令和 8 年 6 月

T F I 株式会社

目 次

第1章 防災業務計画書の位置付け	4
1. 計画書の目的	4
2. 計画書の構成	4
3. 国土交通省等との連携	4
4. 計画書の変更	4
5. 対象施設	4
第2章 防災に関する組織	4
1. 災害対策本部の設置・構成および任務・解散	4
第3章 災害対策本部の設置基準	5
1. 災害対策本部の設置基準	5
第4章 災害対策本部の解散の基準	5
1. 災害対策本部の解散	5
第5章 閉鎖基準	5
1. 閉鎖基準	5
第6章 災害対策の実施	6
1. 営業時間内の事前対策	6
2. 営業時間内の事後対応	7
3. 営業時間外の事前対策	9
4. 営業時間外の事後対応	9
第7章 防災訓練	10
1. 訓練の実施	10
2. 訓練項目	10
第8章 防災に関する教育及び広報	10
1. 駐車場スタッフに対する教育	10
2. 広報	11
第9章 その他	11

<添付資料>

(別表 1) 災害対策本部の構成及び任務

(別表 2) 緊急連絡体制表

(別添①) 避難経路図

(別添②) 帰宅困難者心得 10 か条

(別添③) 静岡市防災ハザードマップ(葵区・駿河区)

(別添④) 災害用伝言ダイヤル(171)の基本的操作方法

第1章 防災業務計画書の位置付け

1. 計画書の目的

この計画は、T F I 株式会社（以下「T F I」という。）が管理・運営する駐車場について、防災に関し執るべき措置等を定め、防災対策の推進を図ることを目的とする。

2. 計画書の構成

この計画は、現実の災害に対する対応に即した構成とし、地震・風水害・火災等の災害に対する、予防、応急対策のそれぞれの段階における対応を具体的に定める。

3. 国土交通省等との連携

T F I 及び駐車場スタッフ（人材派遣会社等から派遣されている人を含む。以下同じ）は、国土交通省等と連携してから当該駐車場の防災対策・対応を実施するものとする。

4. 計画書の変更

この計画は、必要に応じ変更を行うものとし、変更しようとする場合は、遅滞なく国と協議し承諾を得るものとする。

5. 対象施設

この計画の対象とする駐車場は、以下のとおりとする。

駐車場名	所在地	形式	収容台数
静岡駅前地下駐車場	静岡県静岡市葵区黒金町 1 番地の 1	機械式地下駐車場	200 台

第2章 防災に関する組織

1. 災害対策本部の設置・構成および任務・解散

1) 災害対策本部の「設置」

静岡国道事務所長は、災害対策本部長として、災害が発生し、又は発生するおそれがある場合において、防災対策を推進するため必要があるときは、第3章第1項に定める設置基準に基づき静岡国道事務所に災害対策本部を設置するとともに、静岡市役所のサテライト本部、T F I のサテライト本部（東京都千代田区有楽町 2-7-1）と常時接続体制を構築する。

2) 災害対策本部の「構成および任務」

災害対策本部の構成及び任務は、別表 1 のとおりとする。

3) 災害対策本部の「解散」

静岡国道事務所長（災害対策本部長）は、第4章1項に定める解散基準に至った時は、災害対策本部を解散する。

第3章 災害対策本部の設置基準

1. 災害対策本部の設置基準

T F I が管理・運営する駐車場又はその存する地域が下記の状況に至ったとき。

（各自治体からの以下災害情報等を受信した時）

- 1) 台風、大雨、洪水による災害の発生が予想されるとき
 - ・ 静岡市南部に警戒レベル 2 相当（大雨注意報）の防災気象情報が発表されたとき
 - ・ 静岡県に線状降水帯半日前予測が発表されたとき
 - ・ 時間雨量 67mm 以上の降雨（静岡駅前）が予想されるとき
- 2) 台風、大雨、洪水等により被害が発生したとき
- 3) 火災・爆発等により被害が発生し、又は発生のおそれがあるとき
- 4) 南海トラフ地震臨時情報等が発令されたとき
- 5) 地震により、相当の被害が発生したとき
- 6) その他必要と認められたとき

第4章 災害対策本部の解散の基準

1. 災害対策本部の解散

T F I が管理・運営する駐車場、又はその存する地域が下記の状態に至ったとき。

- 1) 台風、大雨、洪水等による被害のおそれが無くなったとき
- 2) 火災、爆発等による被害のおそれが無くなったとき
- 3) 南海トラフ地震臨時情報等が解除されたとき
- 4) 地震・津波に関する情報発信が治まり、状態が安定したとき
- 5) 災害が発生した後、必要な対応により災害対策本部設置の必要が無くなったとき
- 6) その他本部長の判断のあったとき

第5章 閉鎖基準

1. 閉鎖基準

T F I が管理・運営する駐車場、又はその存する地域が下記の状態に至ったとき閉鎖するものとする。

- 1) 内水による浸水の発生が予想されるとき
 - ・ 静岡市南部に警戒レベル 4 相当（大雨危険警報）の防災気象情報が発表されたとき
 - ・ 静岡県中部に線状降水帯直前予測が発表されたとき
 - ・ 時間雨量 67mm 以上の降雨（静岡駅前）が、予想される 2 時間前、もしくは観測さ

れたとき

- ・ 駐車場への浸水が確認された場合
- 2) 洪水による浸水の発生が予想されるとき
 - ・ 安倍川に警戒レベル 4 相当（氾濫危険警報）の防災気象情報が発令されたとき
 - 3) その他必要と認められたとき

第 6 章 災害対策の実施

1. 営業時間内の事前対策

1) 南海トラフ臨時情報が発令された場合、又は地震が発生した場合

(1) 災害対策本部の対応

① 現地駐車場の状況の把握を行うとともに、現地駐車場の対応に必要な指示を行う。

(2) 現地駐車場における対応

勤務中の駐車場スタッフは、状況を判断した上で、速やかに次の措置を講じる。

① 場内放送等により情報を駐車場内に周知するとともに、滞在者に知らせ、むやみに場外へ出ないように指示し、安全性が確保できると推測される場合はただちに退去させ、必要に応じ避難場所への誘導を実施する。

② 状況を鑑み避難場所への誘導を実施。

③ 周辺道路が使用不能な場合は、入庫口及び出庫口を閉じ駐車場を閉鎖する。

④ 緊急連絡体制表に従い、連絡を実施する。（別表 2）

⑤ 災害対策本部の指示のもと必要な対応を取る。

2) 台風、大雨、洪水による災害の発生が予想された場合

災害対策本部及び現地駐車場における体制及び対応は別表 1 のとおりとする。

(1) 災害対策本部の対応

① 現地駐車場の状況の把握を行うとともに、現地駐車場の対応に必要な指示を行う。

② 状況に応じて、緊急連絡体制表に従い、防災対策協議会構成員から情報収集する。

(2) 現地駐車場における対応

勤務中の駐車場スタッフは、災害対策本部の指示に従い、速やかに次の措置を講じる。

① 風水害情報を随時確認し、正確な情報収集に努める。

② 場内放送等により、情報の内容を駐車場内に周知するとともに退去をうながし、必要に応じて避難誘導を行う。なお、閉鎖判断がなされた場合には、予告的な周知はせず、入口表示、館内放送等を通じて、「既に閉鎖している」ことを明確に示す。

③ 防水扉（防水板）、排水ポンプ、非常用の発電機等の作動を確認する。

④ 入庫口を閉鎖する。出庫口は状況の許す限り開けておき、可能な限り出庫させる。

⑤ 出庫口の防水扉（防水板）を閉じる際は、誤進入防止の措置を施す。

⑥ 緊急連絡体制表に従い、連絡を実施する。

⑦必要に応じて協力会社等や災害対策本部にも協力の要請を行う。

⑧巡回の上、必要に応じて人や車両の誘導を行う。

⑨出水の状況により、災害対策本部に更なる応援要請を行う。

3) 雪害・路面凍結による被害が懸念される場合

(1) 災害対策本部の対応

①現地駐車場の状況の把握を行うとともに、現地駐車場の対応に必要な指示を行う。

(2) 現地駐車場における対応

勤務中の駐車場スタッフは、状況を判断した上で、速やかに次の措置を講じる。

①情報を随時確認し、正確な情報収集に努める。

②大雪警報等の情報を適切な方法で駐車場利用者に周知する。

③大雪の場合は、駐車場の車両及び歩行者出入口部の周辺を除雪する。

④路面凍結が懸念される場合は、車両及び歩行者出入口部の周辺に必要なに応じて、滑り止め用砂を散布する。

⑤緊急連絡体制表に従い、必要に応じて連絡を実施する。

⑥必要に応じて協力会社等や災害対策本部にも協力の要請を行う。

⑦巡回の上、必要に応じて人や車両の誘導を行う。

2. 営業時間内の事後対応

1) 地震、台風、大雨、洪水、雪害・凍結等の災害が発生せず、これらの警報等が解除される等、被害のおそれが無くなった場合

(1) 災害対策本部の対応

①設置した災害対策本部を解散する。

(2) 現地駐車場における対応

勤務中の駐車場スタッフは、状況を判断した上で、次の措置を講じる。

①緊急連絡体制表に従い、状況を報告する。

②閉じた防水扉（防水板）を開ける。

③入、出庫口を開ける。

④通常の営業を行う。

2) 地震が発生した場合

(1) 災害対策本部の対応

①現地駐車場等に連絡し、状況の把握を行うとともに現地駐車場の対応に必要な指示を行う。

②被害が生じた場合、被害状況に応じて、対応策を検討する。

(2) 現地駐車場における対応

勤務中の駐車場スタッフは状況を判断した上で、次の措置を講じる。

- ①場内放送等により、情報を駐車場内に周知するとともに、むやみに場外へ出ないよう指示し、安全性が確保できると推測される場合はただちに退去させ、必要に応じ避難場所への誘導を実施する。
- ②入庫口をただちに閉鎖するとともに可能な限り駐車車両を出庫させる。ただし、場内に留まるほうが安全と判断される場合にはこの限りではない。
- ③被害拡大のおそれがある場合で、可能な場合は被害拡大防止に努める。
- ④震度 4 以上の場合は、駐車場スタッフは場内の巡回・確認を行う。
- ⑤災害対策本部に被害の状況を報告する。
- ⑥災害対策本部の指示のもと必要な対応を取る。
- ⑦被害が軽微で駐車場の機能として障害がない場合は、営業を再開する。
- ⑧応急的な復旧が完了し安全が確認されるまで、駐車場を閉鎖する。

3) 台風、大雨、洪水、雪害・凍結等が発生した場合

(1) 災害対策本部の対応

- ①現地駐車場等に連絡し、状況の把握を行うとともに現地駐車場の対応に必要な指示を行う。
- ②被害が生じた場合、被害状況に応じて、対応策を検討する。
- ③状況に応じて、緊急連絡体制表に従い、防災対策協議会構成員から情報収集する。

(2) 現地駐車場における対応

勤務中の駐車場スタッフは状況を判断した上で、次の措置を講じる。

- ①場内放送等により、宣言、又は情報の内容を駐車場内に周知するとともに、むやみに場外へ出ないよう指示し、安全性が確保できると推測される場合はただちに退去させ、必要に応じ避難場所への誘導を実施する。
- ②駐車車両を可能な限り出庫させる。ただし、場内に留まるほうが安全と判断される場合にはこの限りではない。
- ③被害拡大のおそれがある場合で、可能な場合は被害拡大防止に努める。
- ④駐車場スタッフは場内の巡回・確認を行う。
- ⑤災害対策本部に被害状況を報告する。
- ⑥災害対策本部の指示のもと必要な対応を取る。
- ⑦被害が軽微で駐車場の機能として障害がない場合は、防水扉（防水板）を開けた上で営業を再開する。

4) 火災が発生した場合

(1) 災害対策本部の対応

- ①現地駐車場等に連絡し、状況の把握を行うとともに現地駐車場の対応に必要な指示を行う。
- ②被害が生じた場合、被害状況に応じて、対応策を検討する。

(2) 現地駐車場における対応

勤務中の駐車場スタッフは、状況を判断した上で、速やかに次の措置を講じる。

- ①情報を随時確認し、正確な情報収集に努める。
- ②場内放送等により、情報の内容を駐車場内に周知する。
- ③防火区画への侵入防止、避難誘導及び初期消火を速やかに行う。
- ④駐車場内の状況を把握し、消防等の関係機関に連絡する。
- ⑤必要な内容を臨場した消防、警察官等へ引継ぐ。
- ⑥緊急連絡体制表に従い、連絡を実施する。

3. 営業時間外の事前対策

1) 南海トラフ臨時情報、地震情報、台風、大雨、洪水、雪害・凍結等の警報等が発令された場合

(1) 災害対策本部の対応

- ①TFIの関係者、報道又は現地駐車場等からの連絡により、状況の把握を行うとともに現地駐車場の対応に必要な指示を行う。
- ②状況に応じて、緊急連絡体制表に従い、防災対策協議会構成員から情報収集する。

(2) 現地駐車場における対応

- ①駐車場スタッフ等は、災害対策本部の指示に対応出来るように準備を行う。
- ②必要に応じて現地駐車場の状況を確認し、状況に応じ、防水扉（防水板）を閉じる。
- ③緊急連絡体制表に従い、連絡を実施する。
- ④災害対策本部の指示のもと必要な対応を取る。

4. 営業時間外の事後対応

1) 地震、台風、大雨、洪水、雪害・凍結等の災害が発生せず、これらの警報等が解除される等、被害のおそれが無くなった場合

(1) 災害対策本部の対応

- ①設置した災害対策本部を解散する。

(2) 現地駐車場における対応

- ①警報等の解除を駐車場スタッフ等に連絡する。
- ②閉じた防水扉（防水板）を開ける。
- ③通常の営業に備える。

2) 災害が発生した場合

(1) 災害対策本部の対応

- ①TFIの関係者、又は現地駐車場等に連絡し、状況の把握を行うとともに現地駐車場の対応に必要な指示を行う。
- ②被害が生じた場合、被害状況に応じて、対応策を検討する。

- ③状況に応じて、緊急連絡体制表に従い、防災対策協議会構成員から情報収集する。
- (2) 現地駐車場における対応
- ①災害対策本部の出勤指示により駐車場スタッフは、速やかに駐車場に出勤する。
 - ②被害拡大のおそれがある場合は、可能な範囲で被害拡大防止に努める。
 - ③出勤した駐車場スタッフは、場内の巡回・確認を行う。尚、地震の場合は震度4以上で実施する。
 - ④災害対策本部に被害状況を報告する。
 - ⑤災害対策本部の指示のもと必要な対応を取る。
 - ⑥緊急連絡体制表に従い、連絡を実施するとともに、応急的な復旧対策について必要がある場合は協力会社等に対応の協力を要請する。
 - ⑦応急的な復旧が完了し、安全が確認されるまで駐車場を閉鎖する。

第7章 防災訓練

災害対策の充実強化を図るため、防災訓練を実施する。

1. 訓練の実施

訓練は毎年、中部地方整備局静岡国道事務所・静岡市役所・TFI・駐車場スタッフ及び関係機関と連携して行うものとする。

2. 訓練項目

下記項目より、訓練項目を適宜設定して行うものとする。

- 1) 避難訓練（場内放送により、駐車場利用者に訓練内容を伝達するとともに、可能な場合は、駐車場スタッフにより、避難誘導を行う。）
- 2) 情報伝達訓練
中部地方整備局静岡国道事務所、静岡市役所、TFI、タイムズ24、タイムズサービス、日本管財、駐車場スタッフ、警備会社等に対し、想定している訓練の内容及び訓練の結果等の必要な情報を伝達する訓練。
- 3) 止水板設置訓練
中部地方整備局静岡国道事務所、静岡市役所、TFI、駐車場スタッフ等により、止水板の稼働確認や手動設置を行う。また、設備不作動や設置できなかった場合には、速やかに代替手段を講じることとする。
- 4) その他、防災上必要と思われる事項

第8章 防災に関する教育及び広報

1. 駐車場スタッフに対する教育

TFIは、駐車場スタッフに対する教育については、想定される災害の種類により対応

が異なることを考慮し、以下の事項について、講演会、研修への参加及びパンフレット等により行う。

- 1) 防災気象情報の内容及びこれに基づいてとられる措置の内容
- 2) 予想される地震による被害に関する知識
- 3) 風水害の予想に関する知識
- 4) 駐車場スタッフの果たすべき役割

2. 広報

T F I は、駐車場利用者に対し、以下の事項についてパンフレットや場内掲示等により広報を行う。

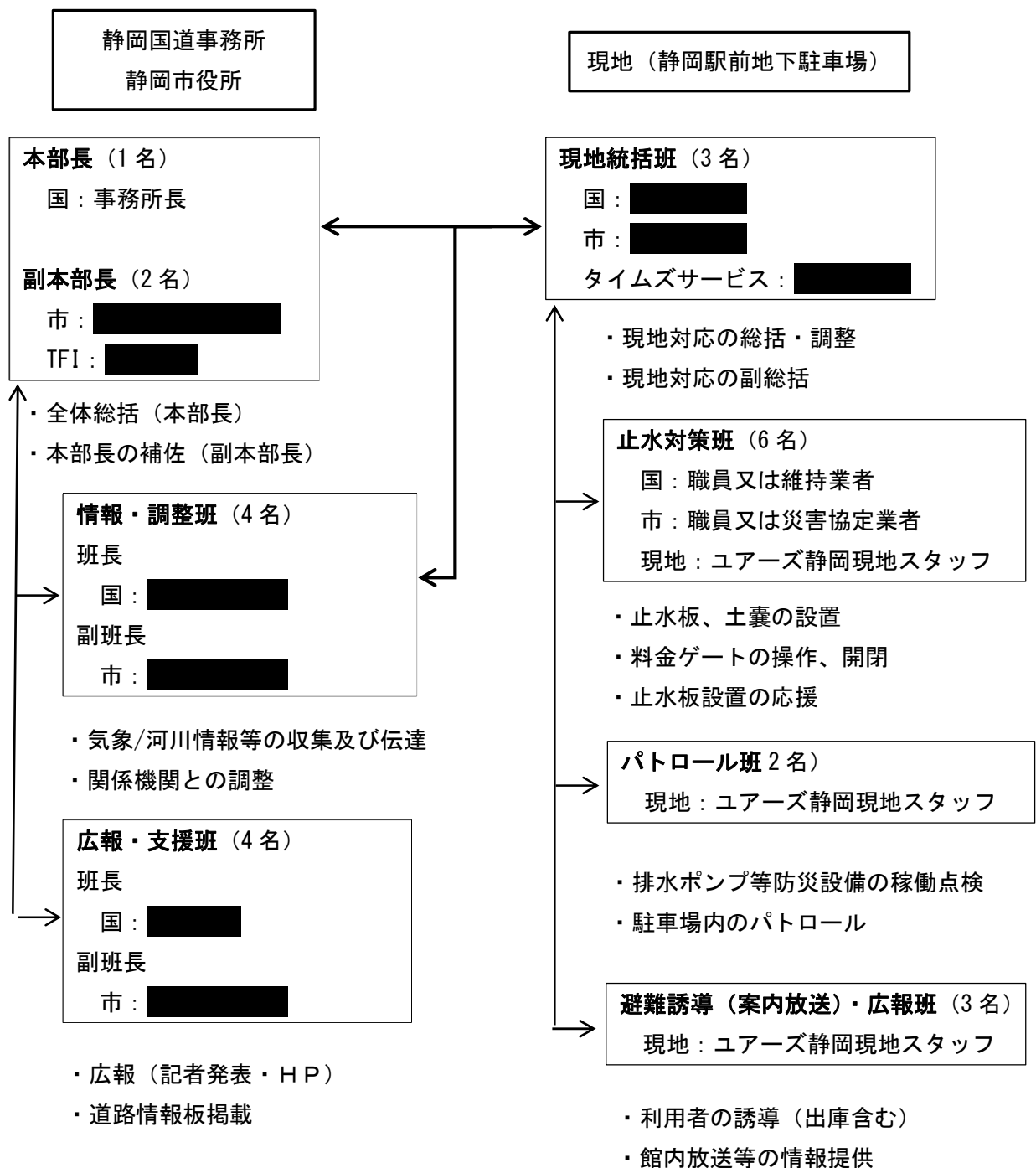
- 1) 地震が発生した場合における対応
 - ①震災情報の提供
 - ②帰宅困難者心得 10 カ条・地震発生時の外出者の行動ルールの掲示：別添②
- 2) 風水害による災害の発生が予想される場合における対応
 - ①風水害情報の提供
 - ②駐車場の位置を示した、ハザードマップの掲示：別添③
- 3) 災害が発生した場合における対応
- 4) 火災が発生した場合における対応
- 5) その他
 - ①災害用伝言ダイヤル（171）の基本的操作方法の掲示：別添④

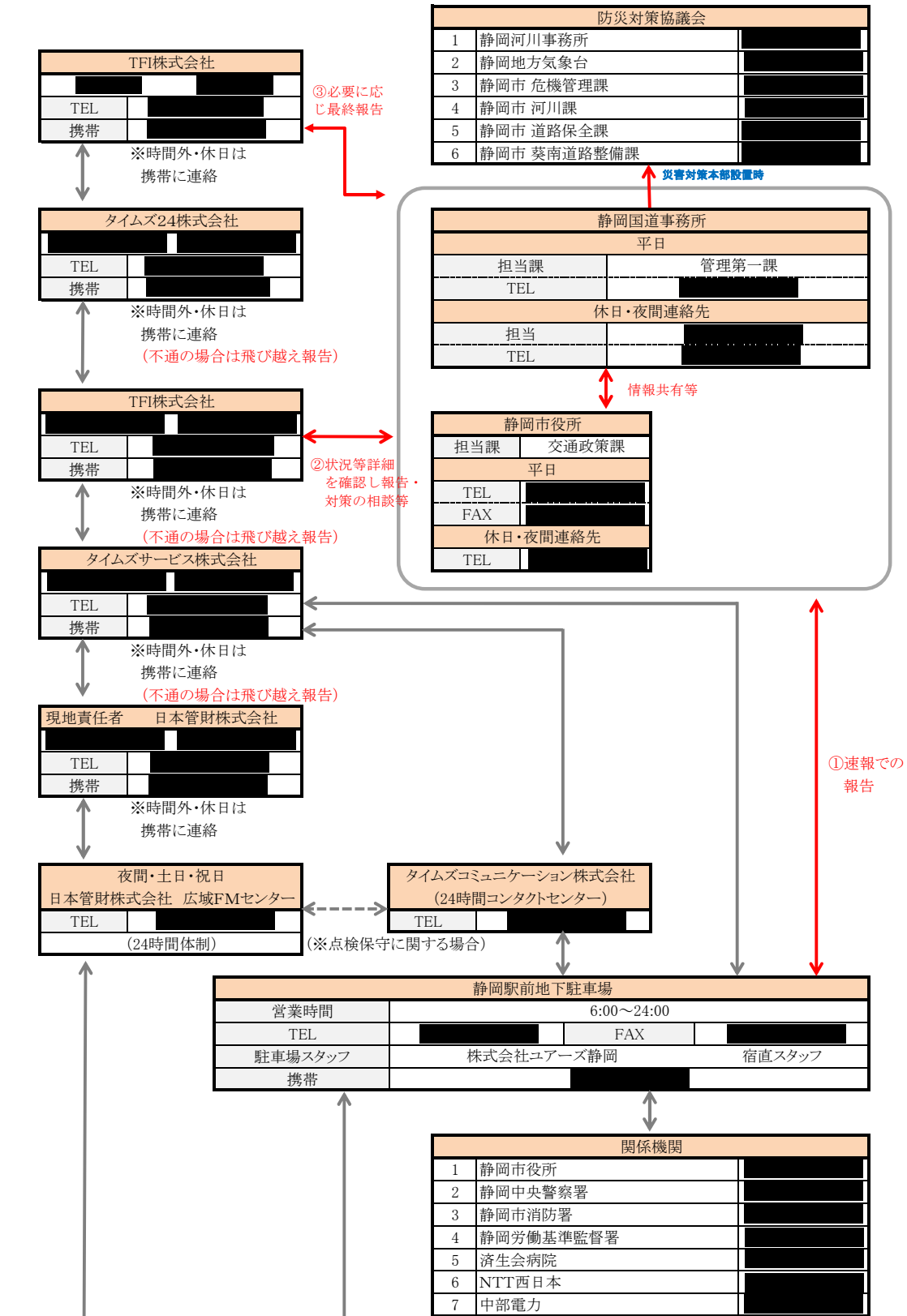
第9章 その他

より円滑な防災業務の推進を図るため、この計画の他に国土交通省防災業務計画（以下 URL 参照）を災害対策本部及び管理事務所へ備えるとともに、中部地方整備局静岡国道事務所が定める計画等に基づき協力するものとする。

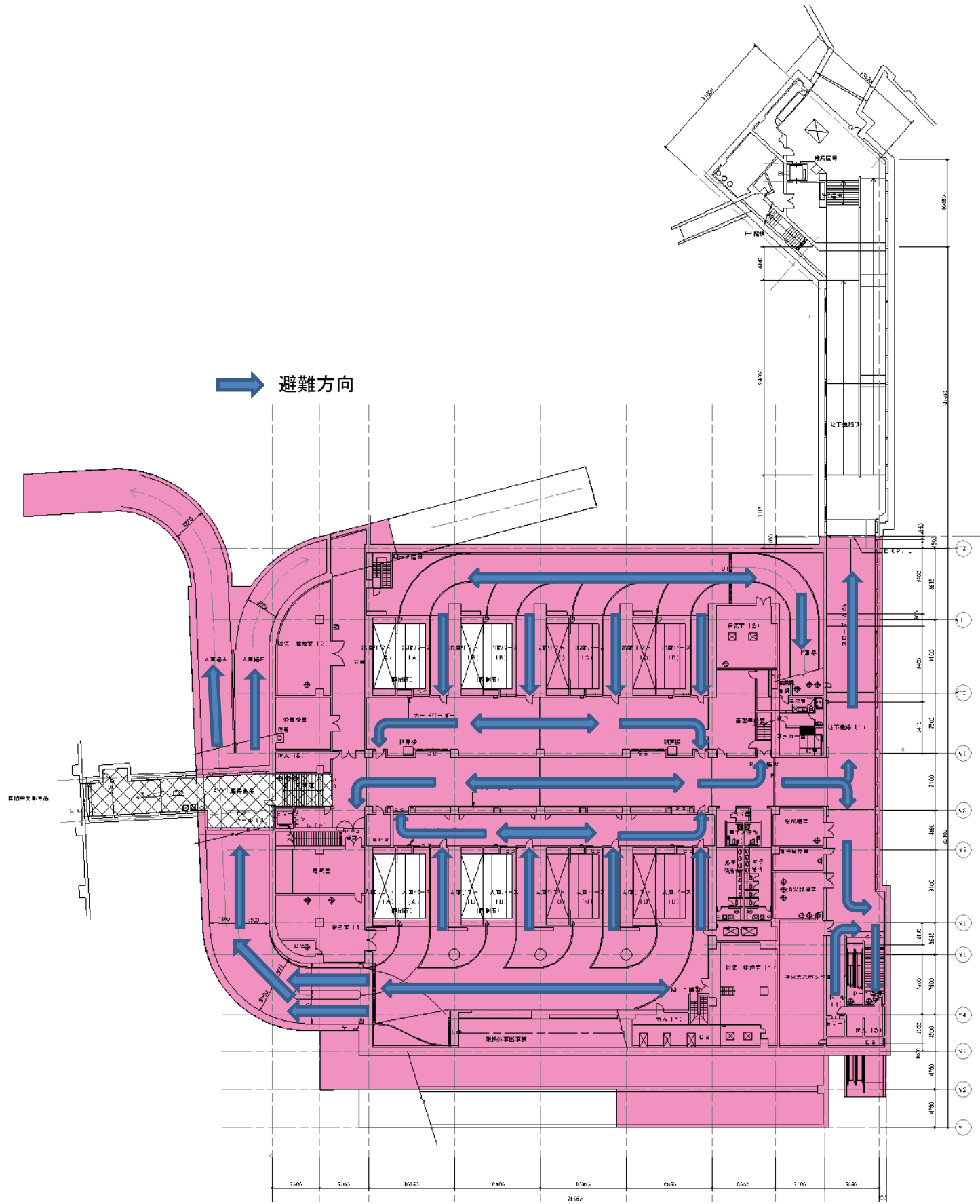
<https://www.mlit.go.jp/saigai/bousaigyomukeikaku.html>

災害対策本部の構成及び任務





NO	業務内容	会社名	担当者	連絡先	備考
1	管理業務				
2	清掃業務				
3	電気工作物点検保守				
4	消防設備等点検保守				
5	昇降機点検保守				EV2基、ES2基
6	機械式駐車装置点検保守				
7	中央監視装置保守				
8	管制設備保守 精算機関係				
9	駐車場機械警備				
10	衛生、給・排水設備保守				



帰宅困難者心得 10 か条

－ 外出時に地震が来てもあわてないために －

1. あわてず騒がず、状況確認
2. 携帯ラジオをポケットに
3. つくっておこう帰宅地図
4. ロッカー開けたらスニーカー(防災グッズ)
5. 机の中にチョコやキャラメル(簡易食料)
6. 事前に家族で話し合い(連絡手段、集合場所)
7. 安否確認、ボイスメールや遠くの親戚
8. 歩いて帰る訓練を
9. 季節に応じた冷暖準備(携帯カイロやタオルなど)
10. 声を掛け合い、助け合おう

－ 地震発生時の外出者の行動ルール －

1. むやみに移動を開始しない。
2. まず安否確認をする。
(災害用伝言ダイヤル171や携帯電話災害用伝言板等を活用し、家族や職場と連絡をとり、冷静に行動できるよう気持ちを落ち着かせる。)
3. 正確な情報により冷静に行動する。
(公共機関が提供する正確な情報を入手し、状況に応じて、どのような行動(帰宅、一時移動、待機など)が安全なのか自ら判断する。)
4. 帰宅できるまで外出者同士が助けあう。
(一時待機できる屋内施設においては、災害時要援護者(高齢者、乳幼児、障害者、妊産婦など)を優先して収容する。)

静岡市洪水・土砂災害ハザードマップ



凡例

- 避難所
- 地区支部拠点
- 要配慮者施設
- 水位観測所
- 地下街等
- アンダーパス

浸水に関する情報

家屋倒壊等氾濫想定区域

- 洪水氾濫※1
- 河岸侵食※2
- 洪水氾濫+河岸侵食

※1 木造家屋が倒壊するような堤防決壊等に伴う氾濫流が発生するおそれがある区域。

※2 家屋が倒壊するような河川浸食の発生するおそれがある区域。

最大浸水深(想定最大)

- 5.0m以上10.0m未満
- 3.0m以上5.0m未満
- 1.0m以上3.0m未満
- 0.5m以上1.0m未満
- 0.3m以上0.5m未満
- 0.3m未満

【災害用伝言ダイヤル（171）の基本的操作方法】

「171」をダイヤルし、音声ガイダンスに従って伝言の録音、再生を行って下さい。

操 作 手 順		伝言の録音		伝言の再生	
①	171をダイヤル	171			
②	録音または再生を選ぶ。	[ガイダンス] こちらは災害用伝言ダイヤルセンタです。録音される方は「1」、再生される方は「2」、暗証番号を利用する録音は「3」、暗証番号を利用する再生は「4」をダイヤルしてください。			
		(暗証番号なし)	(暗証番号あり)	(暗証番号なし)	(暗証番号あり)
		1	3	2	4
			[ガイダンス] 4桁の暗証番号をダイヤルして下さい。		[ガイダンス] 4桁の暗証番号をダイヤルして下さい。
		XXXX			XXXX
③	被災地の方の電話番号を入力する。	[ガイダンス] 被災地の方はご自宅の電話番号、または、連絡を取りたい被災地の方の電話番号を市外局番からダイヤルして下さい。被災地域以外の方は、連絡を取りたい被災地の方の電話番号を市外局番からダイヤルして下さい。			
		0XX XXX XXXXX			
伝言ダイヤルセンタに接続します。※1					
④	メッセージの録音 メッセージの再生	[ガイダンス] 電話番号0XXXXXXXX(、暗証番号XXXX)の伝言を録音します。プッシュ式の電話機をご利用の方は数字の「1」のあとシャープを押して下さい。ダイヤル式の方はそのままお待ち下さい。尚、電話番号が誤りの場合、もう一度おかけ直し下さい。			
		ダイヤル式電話機の場合	プッシュ式電話機の場合	ダイヤル式電話機の場合	プッシュ式電話機の場合
		(ガイダンスが流れるまでお待ちください)	1#	(ガイダンスが流れるまでお待ちください)	1#
		[ガイダンス] 伝言をお預かりします。ピッという音の後に、30秒以内でお話下さい。お話が終わりましたら、電話をお切り下さい。	[ガイダンス] 伝言をお預かりします。ピッという音の後に、30秒以内でお話下さい。お話が終わりましたら、数字の9の後シャープを押して下さい。	[ガイダンス] 新しい伝言からお伝えします。	[ガイダンス] 新しい伝言からお伝えします。伝言を繰返す時は、数字の8の後シャープを、次の伝言に移る時は、数字の9の後シャープを押して下さい。
		伝言の録音		伝言の再生	
		(ガイダンスが流れるまでお待ちください)	録音終了後 9#	[ガイダンス] お伝えする伝言は以上です。	[ガイダンス] お伝えする伝言は以上です。伝言を追加して録音される時は、数字の3の後、シャープを押して下さい。
					(ガイダンスが流れるまでお待ちください)
		[ガイダンス] 伝言をお預かりしました。		[ガイダンス] お伝えする伝言は以上です	
⑤	終了	自動で終話します。			

通話料は発生しません

通話料が発生します※2

通話料は発生しません

通話料が発生します※2

※1センタ利用料について

伝言録音・再生を行うためのセンタ利用料は無料です。

※2通話料について

「メッセージの録音」操作時において、録音できる伝言数を超過していた場合、または、
「メッセージの再生」操作時において、お預かりしている伝言がない場合は通話料はかかりません。

覚えてください、災害時の声の伝言板 災害用伝言ダイヤル(171)